

## 《教育目標》 自律・友愛・創造

### 「自らを律し、なかまを大切に、創造性豊かな人」

自らを鍛え、責任ある行動をとり、互いの立場を認め合い、ともに支え合い、高まりあう「なかまづくり」ができ、自らの「夢の実現」に向けて、何事にもチャレンジする創造性豊かな生徒の育成を目指す。

本校のHP…<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=201407>

★「生きる力」を伸ばし、「自信と誇りにみちた生徒」を育成していく中で、生徒一人ひとりが持てる力を発揮し、各自の自己評価を高めるために創意工夫ある教育活動を実践する。(輝く松原づくり)



日	曜	行 事 等	
1	月		
2	火		
3	水	1 年・2 年学習会 9:00～11:00	
4	木	1 年・2 年学習会 9:00～11:00	
5	金	1 年・2 年学習会 9:00～11:00   ペトナムから 10 人生徒会と交流	
6	土		
7	日		
8	月	1 年学習会 9:00～11:00    3 年学習会 10:00～11:30	
9	火	3 年学習会 10:00～11:30	
10	水	3 年学習会 10:00～11:30	
11	木	山の日	
12	金	 学校閉鎖日	
13	土		
14	日		
15	月		
16	火		
17	水		
18	木	教職員研修会	
19	金	三校合同教職員研修会	
20	土		
21	日		
22	月	1 年・2 年学習会 9:00～11:00    3 年学習会 10:00～11:30	
23	火	第Ⅱ期開始    2 限英語テスト 13:30～漢検	
24	水	育成学級サマーキャンプ	
25	木	育成学級サマーキャンプ    評議専門委員会	
26	金		
27	土		
28	日		
29	月		2 年高校訪問
30	火		
31	水		

平成28年7月20日発行

文責 宮田 功

## 保護者の皆様へ

### 「自己肯定感」と家庭生活

本校の教育目標に「創造」があり、「チャレンジをする」ことを大切にしたいという思いが根底にあります。ただ、チャレンジをするためには、自己肯定感が高くなければならないようです。よく耳にする自己肯定感ですが、これが低いと自分に自信が持てず、失敗をしたくないからと挑戦するのを嫌がるだけでなく、必要以上に人の評価を気にする、萎縮してしまい対等な人間関係を築けない、小さな失敗から立ち直れないほどダメージを受ける。また、非行の原因にもなると言われているようです。

自己肯定感というのは、文字の通り自分のことを、「ありのままでよい」「良いところも、悪いところも、全部含めて私なんだ!」「自分には価値がある」と思えることを言います。

自己肯定感に関する日本の教育の問題点は、特に小6と中2では2.2.1ポイントもの差があり、小学生から中学生になると自己肯定感が大きく下がるところです。国際比較調査などで、日本の高校生の自己肯定感が著しく低いことがわかっており、子どもたちの自己肯定感を高めることは、学習指導要領の改訂でも課題の一つとなっています。

そんな中で、昨年度の本校3年生の全国学力学習状況調査の質問用紙にある自己肯定感に関する設問において、全国平均より低くなっていました。ただ、1回の調査の結果なので、これが実状を的確に捉えている

《裏に続きます》

## 9月の予定

7・8日…英検申込 (8:00～8:20) 9日…1.2年生「日本画を学ぶ」 12～27日…合唱タイム  
20日…体育大会予行 28日…学校祭展示の部 29日…学校祭舞台の部

とは限りませんが、少し気になりました。

では、自己肯定感はどうにすれば、高まっていくのでしょうか。ある調査結果から、子どもたちの体験活動と自己肯定感との関係を見ると、「海や川で泳いだことがある」などの自然体験の多い子どものうち、自己肯定感が高かった者は61.1%なのに対して、自然体験が少ない子どものうち、自己肯定感が高い者は29.7%にすぎませんでした。

同様に、「ナイフや包丁で、果物や野菜などを切ったこと」などの生活体験の多い子どものうち、自己肯定感が高い者は60.0%、生活体験が少ない者では27.9%でした。また「買い物のお手伝いをする事」などのお手伝いを多くしている子どものうち自己肯定感が高い者は63.4%、お手伝いをほとんどしていない子どもでは22.4%でした。小さなころから自然体験や生活体験、お手伝いなどを経験している子どもほど、自己肯定感が高いと言ってよさそうです。

ただ、「子どもの教育費の支出が多い家庭の子どもほど、自然体験が豊富で、しつけもできている」という結果もあります。自然体験などは旅行やレジャーに関係してくること、経済的余裕のある家庭ほどしつけなどに時間が取れることなどが影響しているのでしょう。

その一方で、生活体験やお手伝いなどは、家庭の経済力と関係ないということもわかってきました。重要なのは、家庭の経済力ではなく、保護者がどれだけ子どもと関われるかということのようです。とくに夏休みには、時間を活用して、お子たちの自然体験と生活体験、お手伝いを重視することは意味あることと思います。

### 1年生科学センター学習

6月15日(水)に阪急と地下鉄を使って、京都市科学センターに行き、実験室学習を受けました。テーマは、1組が「秘伝! コマのひみつ」、2組が「メダカの『め』」でした。



1年 科学センター学習

### 非行防止教室

6月16日(木)の4限に全校生徒対象に実施しました。京都府警から、市教委に出向されている晝川さんより「非行行為とは? 犯罪とは?」をいじめや薬物乱用の実際の事例をもとに説明していただきました。

### 3年 伝統文化教育について

6月16日の6限に、「京町家と暮らしと文化」というテーマで、京都市景観・まちづくりセンターの寺田敏紀さんに、3年生へのご講演をしていただきました。



### 第42回 育成学級合同球技大会

7月1日(金)に島津アリーナ京都で実施され、本校の育成学級も参加しました。バレーボールとドッチボールが行われました。二人ともがんばりました。



### 1年伝統文化ポスターセッション

6月28日(木)6限に、体育館で開催しました。校外学習で調べた「京都の伝統文化・産業」についての発表会です。生徒たちが各クラスの班より内容や発表方法のいいグループを選び、12グループが発表しました。



### マッピーフォーラム (保護者懇談会)

7月6日(水)の19時より図書室で開催しました。全体会で、進路に関する話のあと、各学年での懇談会を実施しました。

### 生徒会がペットボトルキャップの回収を呼びかけ

7月11~15日(月~金)にかけて、生徒会本部役員の生徒たちが、ペットボトルキャップを集める運動を実施しました。「キャップを860個集めると1つのポリをワクチンとなり、1人の子どもを救うことができます。」と伝え、朝の校門で活動していました。

